

別 記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

令和6年 7月 31日

(宛先)
滋賀県知事

提出者
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
京都府長岡京市東神足2-1-1
氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役 間野 裕一
第25条第3項・第25条第4項
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第4項の規定に基づき、事業者行動計画を策定(変更)し、事業者行動報告書を作成したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	三菱ロジスネクスト株式会社 代表取締役 間野 裕一
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都府長岡京市東神足2-1-1

1 事業所の概要

事業所の名称	三菱ロジスネクスト株式会社 滋賀工場					
事業所の所在地	近江八幡市長光寺町578					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	3	1	5	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 フォークリフトトラック・同部品・附属品製造業
事業の概要	輸送用機械器具製造					
従業員の数	1100	人	操業時間	12	時間/日	
該当する事業者の要件	☒ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	15	台	熱源設備	0	台
	コンプレッサ	20	台	空気調和設備	700	台
				照明設備	2400	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2024	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

2040年までに当社のグローバル全体での事業活動におけるCO₂排出量NetZeroにすることを宣言します。また、当社製品・サービスを通じてお客様のCO₂排出量削減に貢献します。

当社の事業活動に伴うCO₂排出量削減への取り組みとして、下記を推進していきます。

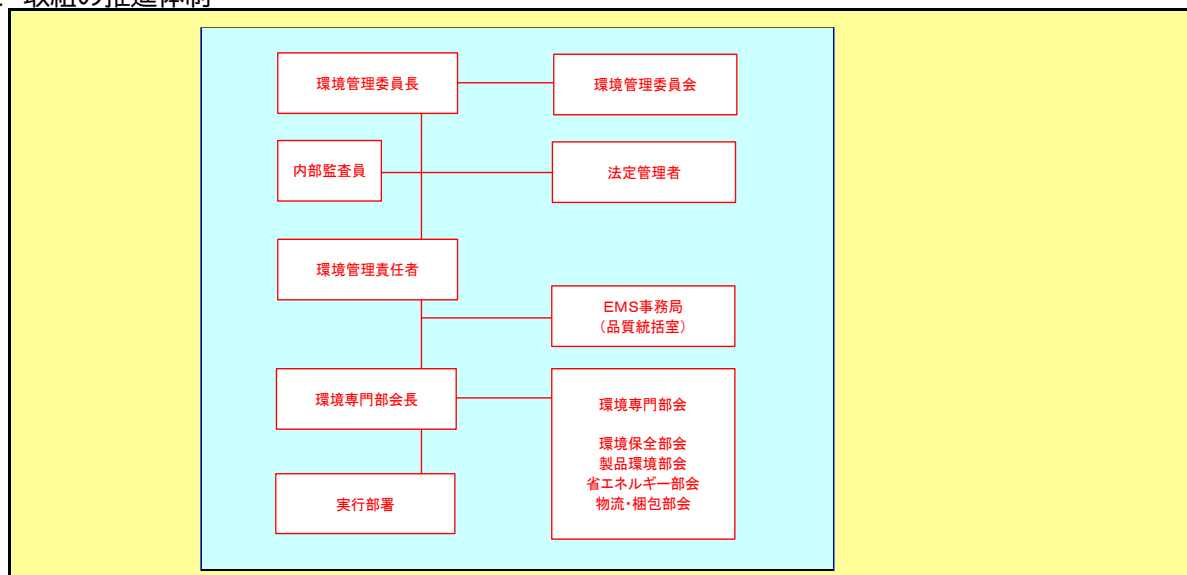
1. 生産性の向上
2. 省エネ活動の推進
3. 三菱重工グループの革新的脱炭素技術の導入

お客様のCO₂排出量削減に向けた製品・サービスの取り組みとしては、下記の開発・提供を通じて推進していきます。

1. 高エネルギー効率の良いバッテリーフォークリフト
2. 港湾物流の脱炭素化に寄与する省エネ荷役機器
3. 物流の効率化を実現する物流ソリューション

また、カーボンニュートラル実現には、森林の果たす役割は大変重要です。当社は森林の保全や植林についての取り組みも検討していきます。

2 取組の推進体制

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

2021年度から2023年度において、以下の取り組みを実施し、温室効果ガスを削減した。(カッコ内は、年間CO₂削減量)

1. 第1組立工場用コンプレッサ購入(71.2t/年)
2. マストブース排気ファンIVT化(4.6t/年)
3. エアーホイス電動化(3.5t/年)
4. 照明のLED化(0.9t/年)
5. シリンダ塗装ボイラー更新(1.7t/年)
6. トランス更新(2.5t/年)
7. 設備車両のバッテリー化(3.5t/年)
8. 特機工場乾燥設備断熱材設置およびHG粉体塗装エアコン更新(5.1t/年)

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	社員食堂厨房設備のIH化	2024年度～	
2				
3				
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
(単年度目標) CO ₂ 排出量原単位を前年度比1%改善する。 (3カ年目標) 2026年度のCO ₂ 排出量原単位を2023年度比で3%改善する。	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	4,194					
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	7,312					
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	7,312					
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂						
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		13.500					

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	現在計画中		
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	現在計画中
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	0	kW	水力・小水力	0	kW	地熱	0	kW
太陽熱	0	kW	バイオマス	0	kW	その他 ()	0	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績								

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0					
上記のうち自家消費量	kWh	0					

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
1.エンジン式フォークリフト並みの性能を持つバッテリーフォークリフトの開発 2.トラック出荷に対応した無人フォークリフトシステムの開発	
	CO ₂ 削減貢献量
	t-CO2

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
1.供試車を用い、リチウムイオンバッテリー搭載による足元スペース改善と稼働時間延長への効果を確認し、商品化を進める。 2.ディーチャークスタマーと連携し、製品化の為に必要な機能改善を進める。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠